

月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

# えくてびあん

(EKUTEBIAN VOL.14 JANUARY 1996 EKUTEBIAN)

1

ベスト立川人・展'96開催

平成8年1月11日(土)日(日)午後1時～午後5時  
立川市立川公民館(立川市立川1-1-1)  
立川市立川公民館(立川市立川1-1-1)

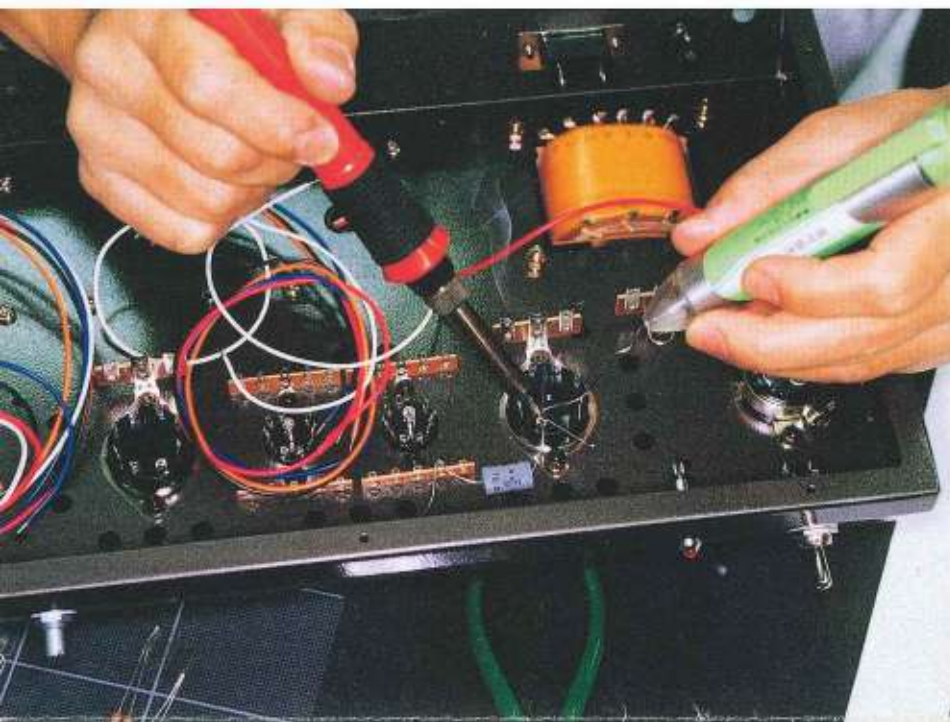


まい あーと ■ 油絵「みち」by 斉藤 香一



# 佐々木秀貴さん(曙町2丁目)と 真空管アンプづくりをたのしむ

真空管に灯が灯る時の喜びを何と表わせばよいのだろうか。昔の記憶をたどりながら真空管アンプの作成に挑戦してくれたのは、佐々木秀貴さん(曙町2丁目)。デジタルの音に慣れてしまった「若い耳」には物足りなく聞こえるかもしれないが、優しく暖かい音質に思わず腕を組んでしまう。ショップからレコードが消えてしまっても、レコードプレーヤーの需要はなくなるというご時勢に、真空管アンプは静かなブームという。外の寒さなど、どこかに飛んでいってしまうほど気持ちよくなる音、貴方もおひとついかがですか。



部品数は少ないが、半田ゴテの扱いには要注意。  
実体配線図にしたがっての組立に要した時間は8  
時間程。完成後の「灯入れ」は緊張の一瞬である。

## MADE IN EKUTEBIAN

メイド・イン・えくてびあん

12

最終回



95年12月2日・3日 アミューたちかわ  
第2回立川市民オペラ 歌劇「ラ・ボエーム」上演

# カルチェ・ラタンの 青春に酔った日

総勢二百五十名もの立川人が歌いあげる、十九世紀はパリの青春物語…。

昨年12月2日・3日の二日間、立川市民オペラ『ラ・ボエーム』は、アミューたちかわ大ホールを埋めた人々のところに、圧倒的な感動をもたらした。

プッチーニの手による名作中の名作『ラ・ボエーム』。そこに描かれているのは、詩や音楽を愛し、貧しくも優しい心を持った青年たちの恋と友情の物語。パリの下町の日常を描きながら、いわば「目に見えないもの」の美しさを語るこの歌劇。カルチェ・ラタンとわが街をだぶらせた人も少なくないはずだ。

二期会、藤原歌劇団といった第一線のソリストたちに混じり、脇を固めた二百名以上の市民出演者。この日の為に一年以上も前から準備・練習に取り組んだ成果は、第二幕での大合唱で実を結んだ。ステージ上にあふれる群衆、一人一人がそれをしっかりと「演じている」ことの驚きと感動は、例えようがないものだった。

カルチェ・ラタンの青春に立川が酔った夕べ。

「次のオペラはいつだっけ？」  
「今度の主役は誰？」

そんな言葉が街中で交わされる日が、近い将来きっと来る。その予感を確かに感じさせる見事な公演だった。



さあ出番だ。めいめい衣装を整え、楽屋を出る市民出演者のみなさん。ステージにスタンバイ、緊張がみなぎる。



200名が舞台にあふれる第2幕。クリスマス、カルチェ・ラタンの喧騒。全員の声が重なり大ききうねりとなる。



「やるからには誇りに思えるものを…」総監督・砂川稔さん(国立音大大学院教授)の笑顔が、全員をひとつにした。





<b>立川商店</b> 羽衣町2-30 ☎22-3565	<b>三田花店</b> 錦町2-5-23 ☎24-4187	<b>東京靴流通センター</b> 砂川町1-50-4 ☎37-3641
<b>おそのい時計店</b> 羽衣町2-32-2 ☎22-5211	<b>セガミ薬局</b> 錦町2-7-8 ☎25-9212	<b>JA経済センター 立川店</b> 砂川町2-44-3 ☎36-1824
<b>赤松タバコ店</b> 羽衣町2-42 ☎24-7852	<b>マルミヤスポーツ</b> 錦町2-7-8 ☎22-2912	<b>JA東京みどり 立川支店</b> 砂川町2-44-3 ☎36-1821
<b>中島豆腐店</b> 羽衣町2-12-34 ☎22-5723	<b>そば高尾亭</b> 錦町5-5-31 ☎22-2710	<b>ビジネスホテル クボタ</b> 柴崎町2-12-23 ☎22-1122
<b>和風レストラン 蔦屋</b> 羽衣町2-27-9 ☎26-3698	<b>BSタイヤショップ 佐藤商会</b> 幸町5-10-2 ☎37-0912	<b>中華料理 みよし</b> 柴崎町2-10 ☎25-3873
<b>さくら</b> 米町2-46-3 ☎36-8285	<b>いなげや 立川店</b> 幸町1-23-6 ☎37-1820	<b>石原薬局</b> 柴崎町2-10-3 ☎23-4067
<b>永光薬局</b> 米町2-58-7 ☎36-0206	<b>ロッセリア 立川砂川店</b> 幸町4-38 ☎37-4413	<b>輪輪館</b> 柴崎町2-12-17 ☎22-8100
<b>メンズカット ヤザワ</b> 米町2-59-8 ☎36-6716	<b>洋菓子 マリアン</b> 高松町2-10-22 ☎24-3912	<b>有関田酒店</b> 柴崎町2-2-17 ☎24-2960
<b>うちのやブルマン</b> 錦町1-18-17 ☎24-9280	<b>横町屋菓子店</b> 高松町2-11-23 ☎22-2609	<b>寿司 由</b> 柴崎町2-2-8 ☎22-3733
<b>美容室 アリス</b> 錦町1-15-21 ☎25-1100	<b>新藤青果店</b> 高松町2-3-13 ☎22-6443	<b>ブティック リッチ</b> 柴崎町2-3-10 ☎28-2054
<b>coffee shop 遊香</b> 錦町1-4-24 ☎27-3840	<b>スーパー やなぎや</b> 高松町2-5 ☎22-4322	<b>キャンパショップ</b> 柴崎町2-3-6 ☎28-1501
<b>ステーキのブレ</b> 錦町1-8-3 ☎27-1630	<b>フレンド書房</b> 高松町3-18-2 ☎27-1555	<b>マイシティハウス 立川南口店</b> 柴崎町2-3-8 ☎26-0148
<b>寿屋酒店</b> 錦町2-1-13 ☎22-3625	<b>山梨中央銀行 立川支店</b> 高松町2-16-13 ☎26-1571	<b>カフェレストラン ほまれ屋</b> 柴崎町2-4-15 ☎26-2232
<b>TAPAS</b> 錦町2-2-29 ☎29-0733	<b>CAFE-RESTAURANT TIP-TOP</b> 高松町3-27-27 ☎25-2030	<b>ファッションハウス ほまれ屋</b> 柴崎町2-4-15 ☎25-2788



**小島勝利さん ●立川市役所**  
水の道を守って40年。水漏れ事故を未然に防ぐ、驚異の耳は震災被災地でも活躍。



**波多田雅信さん・蓮田貢一さん ●立川警察署**  
パトロールの手には必ず持参。手作りの「文芸新聞」で人気の二人のお巡りさん。



**遠山好幸さん ●一番町**  
ユニークな活動をととし、新しい「ケーキ屋さん」像を目指す、若きパティシエ。



**砂川 稔さん ●国立音楽大学**  
総監督を務めた第2回市民オペラは大成功。スタッフも市民もこの笑顔で一つに。

## 今年も笑顔でござるように ご一緒しませんか 『ベスト立川人・展』

あけましておめでとうございます。とご挨拶をするとお返事は、よくこんな言葉でいただきます。「今度もやるんでしょ?」「今年は誰が出るの?」新春吉例となりましたベスト立川人・展で今年もみなさんといっしょに元気なタッチカワをお祝いしたいと思います。憂鬱な話題が多かった95年ですが、立川はこの方たちのおかげで笑顔を見失わずにすみました。ここでのご紹介はほんの少しあとは会場でごゆっくり。12日(金)から18日(木)まで立川駅ビル・ルミネ7F「ウィルギャラリー」で笑顔のひとつを一緒にしませんか?



**斎藤 勝さん ●富士見町**  
上野の動物園、新園長は生っ粋の立川人。動物たちに注ぐ眼差しは限りなく優しい。



**遠山陽子さん ●柏町**  
「第33回現代俳句協会賞」受賞以降の作品から選された、句集「連音」を発表。



**やまやのぎくさん ●富士見町**  
立川市民俳句会創設以来38年。ともに倦まず、たゆまず続けてきた「俳句生活」。



**小沢長治さん ●立川市歴史民俗資料館**  
多摩地区の戦災状況を綿密に調査、研究。戦後50年を越え語り継ぐ、平和への想い。

# えくてびあんの輪

人があて、街があります。  
あなたがあて、立川があります。  
そこにちょっとだけ、えくてびあん!  
リストのお店にはいつでも えくてびあん!

<b>ほだい樹</b> 柴崎町2-4-18 ☎28-0556	<b>京榎 立川南口店</b> 柴崎町3-6-2 ☎21-4640	<b>住友銀行 立川支店</b> 曙町2-17-15 ☎22-6171
<b>コマツホーム</b> 柴崎町2-4-6 ☎25-5811	<b>理容 ふなやま</b> 柴崎町3-6-23 ☎27-2780	<b>喫茶 アパン</b> 曙町2-17-15 ☎27-4479
<b>喫茶 キャリー</b> 柴崎町2-4-7 ☎28-2630	<b>多摩中央信用金庫 南口支店</b> 柴崎町3-7-4 ☎28-2211	<b>日の出屋 本店</b> 曙町2-2-18 ☎22-3308
<b>かみゆい処 わ</b> 柴崎町2-4-8 ☎22-8202	<b>オリオン書房</b> 柴崎町3-6-27 ☎25-3111	<b>多摩中央ミサワホーム</b> 曙町2-8-29 ☎27-3388
<b>芹沢ガラス店</b> 柴崎町2-4-8 ☎22-3065	<b>和光証券 立川支店</b> 柴崎町3-8-2 ☎24-1321	<b>富士銀行 立川支店</b> 曙町2-4-6 ☎24-3121
<b>小室園</b> 柴崎町2-4-8 ☎22-2894	<b>紀ノ国屋 立川店</b> 若葉町1-13-2 ☎36-1604	<b>あら井館 総本店</b> 曙町2-5-12 ☎22-2957
<b>ユウ都市企画</b> 柴崎町2-3-13 ☎28-2556	<b>ふとんの青木寝商</b> 若葉町1-8-1 ☎36-6833	<b>二木のパン</b> 曙町2-6 ☎22-2278
<b>マエダ文具</b> 柴崎町2-6-2 ☎25-6584	<b>エツソ石油 けやき台ステーション</b> 若葉町2-1 ☎35-3081	<b>三上饅頭店</b> 曙町2-8-30 ☎22-3259
<b>くりや</b> 柴崎町2-9-3 ☎23-2590	<b>いなげや 若葉町店</b> 若葉町3-21-1 ☎37-4119	<b>ホワイトハウス フロム中武</b> 曙町2-11-2 ☎25-8558
<b>立川高等技芸学院</b> 柴崎町2-9-4 ☎22-3424	<b>ルミネ立川店 1F受付</b> 曙町2-1-1 ☎27-1411	<b>ばさーじゅ フロム中武</b> 曙町2-11-2 ☎22-1941
<b>ブックスしんあい</b> 柴崎町3-1-1 ☎27-6701	<b>お菓子の家 エミリーフロアゲ</b> 曙町2-4-28 ☎27-4138	<b>フロム中武 1F受付</b> 曙町2-11-2 ☎24-7111
<b>松山堂薬局</b> 柴崎町3-13-25 ☎22-2550	<b>アルピオン</b> 曙町2-4-28 ☎25-3824	<b>ゲンタッキーフライドチキン 立川店</b> 曙町2-12-16 ☎28-2636
<b>こむろ酒店</b> 柴崎町3-14-3 ☎22-2613	<b>café パーゼル</b> 曙町2-11 ☎23-3746	<b>トボス 立川店</b> 曙町2-18-18 ☎25-0331
<b>ゴンファンクホ 立川店</b> 柴崎町3-4-2 ☎27-7413	<b>パティスリー パーゼル</b> 曙町2-11 ☎23-3746	<b>パットパットゴルフ</b> 泉町 ☎25-2340
<b>かつ 竜</b> 柴崎町3-5-2 ☎25-7647	<b>ロッセリア 立川ルミネ店</b> 曙町2-1-1 ☎24-7433	<b>リーセントパークホテル</b> 富士見町2-1-8 ☎26-3111

### はじめましてたちかわの街

「画廊」類 河合泰子

「こんな所に画廊があったなんて。南口じゃ始めてでしょ!」一週画廊、二週画廊、ひとりで来た日が続く。私はあせった。木村さんよりなだれた。三週画廊も過ぎた夜、私は画廊の灯を消し、鍵を閉めて、クリスマスでぎわう街にでて、パンフを配りながら帰った。手わたそうとして、受けとってくれる人はいない。しかたなくポストに入れる。手作りのパンフには、木村さんの祖父、木村武山の描いたオシヤカサマや、オフロウサマやが写っている。その下に、真新しい画廊の電話番号と。画廊には、パンフのお不動さまとは別の、不動明王の掛け軸が展示されている。木村さんの説明によると、このお不動さまは両目を開いている珍しいものだが、黒白の姿だが、オリジナルの絵には、表せない迫力がある、と知識のないわたしにも感じられた。でも、こんな地味なモノ、いまの時代には受けないんだし、寒い。きつい冷たいようだ。ポストはなかなか見つからない。ついに音をあげた私は、大きなビルの明るいホールの壁にたくさん並んでいる企業のポストに入らせることもあった。年末の仕事で忙しい方々が見てくださると思えなかったが、持ち帰るのも残念だった。翌日の昼、木村さんが電話を受けた。電話の主は、木村さん。五十年もあいだ行方知れなかつた父方の従兄弟だった。朝、出社して見つけたポストのパンフが、再会の糸口となった。画廊から歩いて五分ほどのビルの中にある会社に勤めており、住居も近いという。どの道を意図して、どこに入れたのか、問われても私には答えられない。意図的にしたことはない、行き当たりばったりであった。従兄弟同志が、霧が晴れたように五十年前からいまでのことを語り合う情景に、私は深い感動を覚え、同時に、思ってもみないことが現実におきる人生の不思議さに、信じられない思いを味わった。「発見」した「たちかわ」が、いま別の意味を持ったのだ。おめでとう、そして新年おめでとう。画廊に二つのおめでとうがやってきました。

### 真如苑だより

あけましておめでとうございます。新しい年を迎える喜びは、なにもにも代えられないものです。真如苑では今年も立川の皆さま方をお迎えいたしたく、お待ち申し上げております。今年もよろしくお願ひ申し上げます。  
日時 1月19日(日) 3時~5時  
御本尊、真如宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。  
お申し込みは「えくてびあん」・コンパニオン(本誌)を手渡ししてくられた人へ。



### 表紙は語る

まいあーと 油絵 「みち」 by 齊藤 勝

昨年50周年を迎えた立川美術会で40年のキャリアをもつ齊藤さん。思春期前の子供たちをモチーフにした絵を30年にもわたって描き続けた。今回の作品もその一つ。よく足を運ぶという昭和記念公園でのスケッチをもとに描かれたもの。絵を描くことの難しさを尋ねると、「難しくは考えない」ときっぱりと言いきらる。その言葉の中に30年ものあいだ子供たちの「純粋さ」や、縛られない想像力、に魅了されてきたわけが窺える。  
ご自宅前には小学校とその手前に小さな雑木林があり、自転車に乗った子供たちが木々の間を走り回っている。お話を伺いながら、心象風景を描きたい、という齊藤さんの絵の世界と目の前の風景がふと重って見えたとき、それを察してか「いい眺めでしょう」と言って齊藤さんは笑った。

### ウォッチング

## ドアの謎

底つきのドアと縁の下に出入りするような小さなドアが1階壁面に。曙町3丁目、沼澤さんのお宅である。玄関かと思えばさきにあらず。勝手口か、何かの都合で階段を付けずにいるのか。それとも家相上の問題なのかと思案に暮れて尋ねると、もっともな答えが、沼澤さんは画家。大きなキャンバスを出し入れするのに、それ専用のドアを壁に付けてしまったという次第。生活の中での使い勝手の追求であるが、なんと不思議な外観である。ちなみに小さなドアは植木の出し入れのためとか。

W A T C H I N G

あたたかな サービスで お迎えします

みなさまの 富士銀行

### ベスト立川人・展'96

●期 間● 平成8年1月12日(金)~18日(木)  
●会 場● 立川駅ビル・ルミネ7F ウィルギャラリー  
主 催 立川人展選考委員会・えくてびあん編集工房





# 多摩川の朝

6

写真：鈴木克吉  
短歌：木戸美千子

穏やかに

日は昇りつつ

朝焼けて

鴨の群れゐる

多摩川を染む